

# 上下顎前突症例における前歯後方移動と口唇の形態変化との関連性について —安静時およびスマイル時における検討—

## ・ はじめに

矯正治療患者さんの主訴は審美性の改善にある場合が多く、矯正治療を計画する上で、咬合の改善はもちろんのこと、口元、特に口唇に関する軟組織評価を行うことは重要なことです。近年好ましいと判断されるスマイル時の口唇の要因として口唇の厚さが最も関連性が高いことが報告されています。これらを踏まえ、上下顎前突症と口唇形態との関連性について検討し、また、抜歯治療により硬組織が標準値へと改善された場合、口唇形態も改善しているかどうかを調査することは重要なことです。

## ・ 対象

本研究は、(1)九州大学病院矯正歯科に、1993年4月1日から2005年3月31日までに来院され、上下顎前突と診断され、抜歯による治療を行った成人女性（20歳から30歳）30名の顔面写真および側面頭部エックス線規格写真画像(2)コントロール群として骨格的に正常な上下顎関係を有し、正常咬合を有すると判定され、2006年4月19日から2006年11月29日までに顔面写真を撮影させて頂いた成人女性（20歳から30歳）30名の顔面写真を対象として研究させていただきます。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

## ・ 研究内容

側面セファロ分析により上下顎前歯の後方移動量を測定します。カスタマイズを行った分析ソフトウェアを用い顔面軟組織における口唇の形態計測を行います。これらのデータより、上下顎切歯の位置変化と口唇の形態変化との関連性を統計分析により算出します。また、患者さんの治療前後の口唇形態と標準値の比較検討を行います。

## ・ 患者さんの個人情報の管理について

本研究の実施過程およびその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

## ・ 研究期間

研究を行う期間は承認日～2012年3月31日までです。

## ・ 医学上の貢献

矯正治療前後における口唇の形態変化を評価し、コントロール群と比較することは、矯正歯科臨床において、治療目標の設定や評価に有効なものとなり得ると考えます。

• 研究機関

九州大学大学院 歯学研究院 歯科矯正学分野

教授 高橋 一郎

九州大学病院 口腔保健科

講師 五百井 秀樹

九州大学 歯学府 歯科矯正学分野

大学院生 Nety Trisnawaty

連絡先：〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

Tel 092-642-6462

連絡先担当者：五百井 秀樹